



今井小だより

横浜市立今井小学校

令和4年4月28日

学校だより 5月号

学校教育目標 : か が や い て い る 子 「自分大好き!今井大好き!」

まず「あいさつ」から

学校長 松永 史郎

新年度を迎え、早くも一か月が過ぎようとしています。学校の周りや校庭の木々も美しい新緑に包まれています。

さて、先日、電車内でこんな光景を見かけました。

混雑する電車の中で立っていた乗客が、電車の揺れでよろめき、他の乗客に体と荷物を強くぶつけてしまいました。その人は、何か事情があったのでしょうか、だまっただままでした。ぶつけられた方は、相手をにらみつけています。一触即発の雰囲気になって車内の空気が一瞬凍りついたように感じました。

コロナ禍以後、似たような場面を何度か見かけています。マスク着用やソーシャル・ディスタンス確保の影響でしょうか、声を発してのコミュニケーションの機会は確実に減っています。「すみません。」「失礼します。」等の一言を言い交わせば様々なトラブルが減らせるはずなのに…と思います。このような事例から思うのは、人と人との関係を円滑にするコミュニケーションの第一歩は「あいさつ」なのではないかということです。

朝の登校時や給食準備の時間等、私からも子どもたちにあいさつの声かけを進んでするように心がけています。本校に着任してからの短期間に子どもたちのあいさつの声がだんだん多く聞かれるようになってきてうれしく思っているところです。

一方で、子どもたちの中には、様々な理由から「言葉で伝える」ことが苦手な子がいます。また、ふだんは上手に気持ちや想いを伝えることができる子でも、心身の状態によってはそれができなくなることもあるでしょう。

子どもと接する私たち大人は、そんな子どもたちが発する「言葉にならない訴えやサイン」を受け留められる、あるいは、受け留めようとする存在でありたいです。にこにこ笑顔の子がいたら、その楽しさや喜びを分かち合うことができる…。悲しそうな表情や寂しそうな表情の子、疲れた様子で背中を丸めている子がいたら、温かく声をかけ優しくそばに寄り添うことができる…。そんな大人でいたいものですね。自分は?と振り返ってみると、余裕がないときほど、なかなかそのようにできずに後で反省ばかり。やはり心にゆとりをもつことが大切です。

明後日(4月30日)は明治13年に開校した今井小学校の142回目の創立記念日です。長い歴史と共に本校の教育に携わってきた多くの皆様の学校に対する思いを想像すると、改めて身の引き締まる気持ちになっております。教職員一同、歴史ある今井小学校をさらにすばらしい学校にすべく邁進して参ります。保護者の皆様、地域の皆様には引き続き本校の教育活動へのご理解・ご協力をいただけると幸いです。